



男依健康体操(西組公民館)

民生児童委員や自治会長、近隣ケア代表などの皆さんがスタッフとなり、一緒に参加しています。

公民館十ヶ所を巡って行われる巡回型ホラントリーハウスです。三世代が一緒になってゲームなどを楽しみながら交流する会として続けられています。

# 地域ふれあい広場 三世代が集う

# 協同地区 だより 村 国 の 郷

5月24日	山の前公民館
6月14日	北島団地公民館
7月12日	西組公民館
8月23日	池端公民館
9月20日	須衛公民館
10月18日	会本公民館
12月13日	東部公民館
1月17日	各務福祉センター
2月14日	温井公民館
3月14日	おがせ公民館



新聞紙で玉入れ(山の前公民館)



紙芝居(各務福祉センター)



ビンゴゲーム(須衛公民館)

**第62号**  
編集・発行  
各務地区社会福祉協議会

つなぐちゃん  
社協会費が  
使われています



受付風景(後方壁には児童の作品展示が)

「第九回  
村国の郷ふれあいの集い」  
今回もにぎやかに

各務原市長や小中学校校長など多数の来賓を迎えて、十一月八日に各務小体育館にて開催。今回も三百人ほどの来場者で賑わいました。

入口では出迎えた市社協のマスコット・つなぐちゃんと一緒に写真を撮る家族連れも…。

また、「星の村」の授産品販売も盛況でした。



「かかみのキッズ」

スタートは「かかみのキッズ」。パフォーマンスを交えて爽やかな歌声が会場いっばいに響き渡りました。

次に登場したのは「鶉沼中吹奏楽部」。殆んどが一年生という構成ながら堂々の演奏で、大きな拍手を誘いました。

民謡三味線の「松栄会」は、三味線の心地よい響きの合間に面白トークも飛び出し笑いに包まれる場面も。

最後はみんなでビンゴゲームを楽しみました。



民謡三味線「松栄会」



「鶉沼中吹奏楽部」

### おがせ池夏祭りで盆踊り

七月十九日、程なく花火が上がる時間に、郵便局前広場で盆踊り会を行いました。

夕方とはいえ暑さは厳しく、皆汗びっしょりでした。

「あすか太鼓」が響き、歌い手の外山貴一さんが歌う中、飛び入りで踊る若者や親子連れも。

曲は、各務にゆかりの三音頭(おがせ音頭、男依音頭、須恵器音頭)。郡上節や炭坑節のオーソドックスな曲も楽しみました。



「防災」の講演会(7、3、8)

### 講演会・研修会

#### 「福祉講演会」

当会役員が集合する総会時には、福祉に関する情報を共有し日頃の活動に役立てようと、福祉講演会を行っています。

#### 「近隣ケアグループ研修会」

近隣ケアの方々には年度初め、活動するにあたっての基本的事項をお伝えしています。

### 高齢者ふれあい交流

民生児童委員や近隣ケアが、高齢者を訪ねて交流する週間を、毎年十一月に設けています。満八十歳以上が対象で、今回は約七百人の方々でした。



### 表彰

十一月二十一日に各務原市社会福祉大会が産業文化センターで行われ、二名が「民生委員児童委員功労」の表彰を受けました。

- ◆ 安藤 敏枝さん
- ◆ 深尾三智夫さん



各務の歴史 連載⑰

「三ツ塚と大沢氏」

文：各務原市歴史民俗資料館 長谷 健生

鵜沼羽場町、にんじん選果場の北側に「三ツ塚」と呼ばれる場所があります。三ツの塚が残っており、中央の塚には「大沢和泉守 法名月窓祐圓信士 永禄五年八月 日」と刻まれた石碑が立っています。大沢和泉守とは、いったい誰なのでしょう。か。「永禄五年」は西暦二五六二年、戦国時代です。戦国時代で大沢といつと、鵜沼城主大沢次郎左衛門が思い浮かびます。

永禄八年(二五六五)、織田信長は木曾川を越えて美濃国に攻め込みます。信長が伊木山に砦を築いて美濃への足掛かりとすると、城を守り切れないと判断した大沢次郎左衛門は降伏しました。豊臣秀吉の二代記である『太閤記』によると、この戦いの折、秀吉は信長の命により大沢次郎左衛門を調略しました。信長は秀吉に、大沢を殺すよう命じましたが、秀吉は異を唱えます。そして大沢を守るため、自ら人質となり大沢を逃がしたとされています。このエピソードは、今年の大河ドラマ『豊臣兄弟』第六話の基になっています。

その後、大沢次郎左衛門は、柴田勝豊や豊臣秀次の家臣となり、晩年は小田原の萬松院で暮ら



鵜沼羽場町「三ツ塚」の石碑

し、そこで没したようです。子孫は江戸時代、上総国・下総国に領地を持つ旗本となっています。江戸幕府が作成した公式の系図である『寛政重修諸家譜』を見ると、旗本大沢氏の先祖である大沢次郎左衛門正秀の父親が「和泉守正信」であり、法名が「祐圓」とであると記されています。三ツ塚に眠るのは、次郎左衛門の父・和泉守正信であると考えられます。

『美濃雑事記』『犬山里語記』には、文政十年(二八二七)四月、三ツ塚に甲斐国山梨郡鎮目村出

身の大沢由右衛門益正という人物が訪れたとあります。益正は、自分は鵜沼城主大沢氏の分家であり、犬山の本龍寺が大沢氏の本家であると語ります。しかし、訪れた本龍寺では記録が焼失しており、確認ができませんでした。そこで益正は、自らが持っている大沢氏の系図や記録などを本龍寺に伝えました。昭和六二年、犬山の郷土史家・小島金兵氏により、「本龍寺文書」の内容をまとめた『和泉の流れ』(自費出版)が刊行されました。ここには『寛政重修諸家譜』とは全く違った由緒・系図が掲載されています。また昭和六二年、本龍寺の呼びかけによって三ツ塚の再整備が行われ、新しく追加で石碑が建てられました。新たな石碑には、「本龍寺文書」を基に、三ツ塚は合戦で自刃・討死した大沢一族のものであると記されています。大沢族による系図の作成・伝播を考える上では、興味深い資料です。

鵜沼城主大沢氏の子孫と称する一族は、各務原市や犬山市以外にも、山梨県笛吹市や埼玉県富士見市、大阪府岸和田市など全国各地に点在しています。三ツ塚というモニュメントが存在することや、『太閤記』を始めとする物語で大沢氏が描かれていることが、全国の大沢姓の人々の心を動かし、祖先とされたと思われる。